

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月11日

協議会名: 新発田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
新潟交通観光バス(株)	あやめバス(外回り・内回り)申請番号1~7	・利用者の具体的な利用動向を確認する乗降調査を行い、主要な利用層となっている高校生や高齢者の利用促進に向けた取組の方向性を検討し、高校生や高齢者に向けてバスの利用を促すパンフレットを配布した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 <事業の目標> 年間利用者数81,330人以上 (前年度)77,362人 → (今年度)81,527人 <事業の効果> ・新発田市街地における公共施設や商業施設、医療機関といった施設や観光資源へのアクセス性の確保と回遊性の向上を図る。	高校生や高齢者の利用者確保を図るため、通学や通院、買い物へのバスの利用をPRするパンフレットの配布などの利用促進を継続する。
新潟交通観光バス(株)	川東コミュニティバス申請番号8~15	・地域でのイベントでのPR活動、地域住民向けの広報紙の発行、新高校生を対象とした回数券の贈呈などの利用促進を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 <事業の目標> 1日当たり利用者数260人以上 (前年度)212人 → (今年度)228人 1日当たり運賃収入27,500円以上 (前年度)18,411円 → (今年度)19,982円 <事業の効果> ・川東地区における自家用車を運転できない高齢者や障がい者、高校生等のいわゆる交通弱者の日常生活の移動ニーズに応じた移動手段を確保する。 <達成状況の分析> ・乗車人数が目標に達しなかった理由として、市内高校へ通学する川東地区の高校生や特別支援学校の生徒数の減少及び通学におけるバス利用予定者数の減少が考えられる。 【参考①】市内6高校に通学する川東地区の高校生(見込) (H29)78人 → (H30)73人 【参考②】特別支援学校の生徒数 (H29)75人 → (H30)68人 【参考③】特別支援学校のバス利用予定者数 (H29)40人 → (H30)28人 ・コミュニティバスの運行によって川東地区の地域住民の市内高校への通学や市街地への通院・買い物に必要な移動手段が確保されており、事業の効果が認められる。	地域住民の積極的な利用を促すため、乗り方教室の開催などの利用促進を継続する。また、学校への通学に配慮したダイヤ設定を継続する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月11日

協議会名:	新発田市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>新発田市においては、市内と市外とを結ぶ幹線で広域的な役割を担う広域路線(羽越本線(鉄道)、白新線(鉄道)、木崎線(路線バス)、新谷線(路線バス))を軸に、市域内に広範に鉄道、路線バス、コミュニティバス等により構成される公共交通ネットワークが広がっている。これらの公共交通については、広域路線に通じる幹線路線(路線バス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス)、中心市街地路線(市街地循環バス(あやめバス))が広域路線の支線の役割を果たしている。また、新発田市街地中心部にある新発田駅で結節している。(新発田市地域公共交通網形成計画(以下、「計画」という。))P20、P73参照)</p> <p>「新発田市都市計画マスタープラン」では、目指すべき将来の都市の骨格として、新発田市街地中心部を「都市拠点」と位置付けており、地域公共交通ネットワークの構築においては、新発田市市街地中心部、特に、新発田駅を交通結節点として、中心市街地の各公共施設や商業施設、医療機関といった都市機能施設や観光資源への市内外からのアクセス性を確保し、回遊性を向上させることで、都市拠点としての機能を高める方向としている。また、公共交通を取り巻く現状では、高齢化や学校統廃合に伴う児童生徒の通学環境の変化により、自家用車を運転できない高齢者や児童生徒といったいわゆる交通弱者の日常生活における移動手段の確保が求められており、公共交通の必要性が高まっている。</p> <p>このうち、あやめバスは、市中心部内の居住地域・交通結節点と各拠点施設を結び、地域住民及び各地域・近隣市町からの利用者にとって重要な移動手段となっている。川東コミュニティバスは、川東地区と市中心部を結び、地域住民の日常生活を支える役割とともに、小学校及び中学校への通学手段としての役割を担っている。あやめバス及び川東コミュニティバスは、JR新発田駅で鉄道や路線バスと結節し、地域住民、近隣市町の利用者にとって欠かせない移動手段となっており、将来に渡り安定した運行の確保・維持を図る必要がある。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、あやめバス及び川東コミュニティバスを確保・維持することが必要である。</p>